

**Partial English Translation of Citation 4**

JP 64-000498 U

Title of Invention: Device for Quitting Smoking

[Claims]

1. A device for quitting smoking comprising:

    a hollow body (1) resembling a cigarette;

    a mouthpiece (2) provided at a proximal end of the hollow body (1);

    a light emitter (5) provided at a distal end of the hollow body (1);

    a battery (8) provided inside the hollow body (1) so as to supply an electric power to the light emitter (5); and

    a switch (13) for opening and closing an electrical path between the battery (8) and the light emitter (5) according to an inhalation through the mouthpiece (2).

# 公開実用 昭和64-498

Citation 4

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭64-498

⑬ Int.Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和64年(1989)1月5日

A 24 F 47/00  
// A 24 F 13/06  
A 63 H 33/22

8114-4B  
E-8114-4B  
6935-2C

審査請求 有 (全 頁)

⑮ 考案の名称 喫煙防止具

⑯ 実 願 昭62-97101

⑰ 出 願 昭62(1987)6月23日

⑱ 考 案 者 中 井 義 博 兵庫県西宮市天道町1-17-23号  
⑲ 出 願 人 中 井 義 博 兵庫県西宮市天道町1-17-23号  
⑳ 代 理 人 弁理士 岡田 和秀

## 明細書

### 1、考案の名称

喫煙防止具

### 2、実用新案登録請求の範囲

(1) 中空で紙巻きタバコとほぼ同様の外観を呈する本体を備え、この本体の基端に吸い口を設け、本体の先端には発光体を取り付けるとともに、本体の内部に、前記発光体を発光させるための電池と、前記吸い口を通じた吸引に連動して電池と発光体との通電路を開閉するスイッチ部とを装備したことを特徴とする喫煙防止具。

### 3、考案の詳細な説明

#### <産業上の利用分野>

本考案は、喫煙を止めるためにタバコの替わりに口にくわえて使用する喫煙防止具に関する。

#### <従来の技術>

従来、喫煙防止具として、紙巻きタバコに似せた外観形状を有する本体に吸い口を設け、本体の内部に口腔清涼剤入りのフィルタを装入したものがある。

この喫煙防止具は、禁煙を行なっている者が紙巻きタバコのように口にくわえて使用するもので、息を吸うと、口腔清涼剤を含んだ空気が口中に流入し、これによって、使用者があたかもタバコを吸っているのに似た気分を味わえるようになっている。

使用者は、この喫煙防止具を使用することで、タバコを吸わないで済み、禁煙を継続することができる。

#### <考案が解決しようとする問題点>

しかしながら、実際のタバコでは、息を吸い込む度毎に、先端の燃焼部の温度が上がって赤くなる、等の視覚的変化があるが、上記の喫煙防止具では、息を吸い込む動作をしても、外観上、何等の変化も発生せず、味気ない。そのため、早期に飽きられて、使用されなくなり、喫煙防止具として役立たなくなる場合が多い。

また、外観上の変化が生じないことから、一目で紙巻きタバコでないことが分かり、そのために、タバコの代わりに口にくわえるのに、抵抗感をも

つ人も多い。

本考案は、上述の問題点に鑑みてなされたものであって、実際のタバコを吸っているのと同様の視覚的変化が生じるようにして、使用者に、実際のタバコを吸っているのに極めて近い気分を味あわせ、長期にわたって抵抗感なく使用されるようにすることを目的とする。

#### <問題点を解決するための手段>

本考案は、上記の目的を達成するために、中空で紙巻きタバコとほぼ同様の外観を呈する本体を備え、この本体の基端に吸い口を設け、本体の先端には発光体を取り付けるとともに、本体の内部に、前記発光体を発光させるための電池と、前記吸い口を通じた吸引に連動して電池と発光体との通電路を開閉するスイッチ部とを装備して喫煙防止具を構成した。

#### <作用>

上記構成によれば、使用者が本体の吸い口をくわえ、タバコの煙を吸い込むように息を吸うと、この吸引に連動してスイッチ部が開閉動作して、

電池と発光体との通電路が閉じられ、これによって、本体の先端で発光体が点灯する。そのため、本体の先端が光り、あたかもタバコの火が赤く燃えたような視覚的変化が生じる。

< 実施例 >

以下、本考案を図面に示す実施例に基づいて詳細に説明する。

第1図は、本考案の一実施例の断面図、第2図および第3図は、それぞれ第1図のⅡ-Ⅱ線およびⅢ-Ⅲ線に沿った断面図、第4図は要部であるスイッチ部の動作状態を示す拡大断面図である。

この実施例の喫煙防止具は、中空筒形の本体1を備える。この本体1の基端(第1図の右端)には、同一外径の吸い口2が設けられ、先端にはタバコの燃焼部に似せたカバー3が設けられており、全体として吸いかけの紙巻きタバコと同様の外観を呈する形状に成形されている。吸い口2は空気孔2aを有し、内部にフィルタ4が取り付けられている。このフィルタ4には、口腔清涼剤を含浸させてもよい。カバー3は、光を透過する程度の薄

肉に形成されており、先端に空気孔 3 a を有する。  
このカバー 3 の内部には、赤色の発光ランプ 5 が  
樹脂製の取付部材 6 を介して取り付けられている。  
取付部材 6 は、カバー 3 の内部に嵌合固定されて  
おり、第 2 図に明示するように、カバー 3 の内周  
面との間には空気通路 7 , ... が形成されている。  
発光ランプ 5 の一対のリード端子 5 a , 5 b は取付  
部材 6 の背面側に導出されている。

一方、本体 1 の中途部の内部には、発光ランプ  
5 を発光駆動するための電池 8 が装備されている。  
この電池 8 は、陽極がピン状に突出したタイプで、  
その陽極ピン 8 a の近傍部分が支持部材 9 により  
本体 1 の内周に固定されている。支持部材 9 は、  
第 3 図に示すように、本体 1 の内周面との間に空  
気通路 10 , ... を有する。電池の陽極ピン 8 a は、  
支持部材 9 から本体 1 の先端側に突出して、取付  
部材 6 の背面側に形成された孔 6 a に嵌入し、こ  
の孔 6 a 内で、発光ランプ 5 の一方のリード端子  
5 a に接続されている。電池 8 の陰極である外周  
面には、支持部材 9 の内部において引き出し端子

11の内端が接触し、この引き出し端子11の他端は、支持部材9の先端側に突出している。

電池の支持部材9と発光ランプ5の取付部材6との間には、空間12が形成されており、この空間12内に、電池8と発光ランプ5との通電路を開閉するためのスイッチ部13が設けられている。この例では、スイッチ部13は、スライダ14と、このスライダ14に一体に設けられた可動接点15と、スライダ14に先端方向への弾力を付勢するばね16とから構成されている。スライダ14は、周壁を有する円板で、電池8の陽極ピン8aにスライド自在に支持されており、本体1の内周面との間に空気流通用の間隙17がある状態で、空間12を前後に2分している。可動接点15は、発光ランプ5の一方のリード端子5bに常時摺動自在に接触するとともに、電池8側では、電池8の引き出し端子11と対向しており、スライダ14の電池8側への移動に伴って引き出し端子11と接触するようになっている。

上記構成において、使用者は本体1の吸い口2

をくわえて使用するのであるが、この吸い口 2 の空気孔 2 a は、フィルタ 4、電池 8 の周りの空間、支持部材 9 の空気通路 10、スライダ 14 の周りの間隙 17、取付部材 6 の空気通路 7 を通じてカバー 3 の空気孔 3 a に連通している。

息を吸わない状態では、スライダ 14 に吸引力が作用しないから、第 1 図に示すように、スライダ 14 は、ばね 16 の付勢弾力により取付部材 6 側に変位した位置にあり、可動接点 15 と、電池 8 の引き出し端子 11 とは離間しており、発光ランプ 5 には通電されない。したがって、発光ランプ 5 は点灯しない。

ここで、使用者が息を吸い込むと、その吸引力がスライダ 14 に作用し、スライダ 14 は、ばね 16 の弾力に抗して電池 8 の支持部材 9 側にスライドする。これによって、可動接点 15 が電池 8 の引き出し端子 11 と接触し、電池 8 と発光ランプ 5 との通電路が閉じられる。これによって、発光ランプ 5 が点灯し、その赤色光がカバー 3 を通して外部に放射される。

このように、息を吸う度毎に発光ランプ5が点灯し、カバー3の内部から赤色光が出るから、あたかも、実際のタバコが先端が燃えているような視覚的变化が生じる。

なお、上記の実施例では、本体1先端の発光体として、発光ランプ5を用いたが、発光ダイオードのような他の発光体を用いてもよい。また、実施例では、発光体である発光ランプ5自体が赤色光を発生するようにしたが、白色光を発生する発光ランプ等の発光体を用いる一方、カバー3の内面に赤色のフィルタを設け、これによって、赤色光が放射されるようにしてもよい。

#### < 考案の効果 >

以上のように、本考案によれば、息を吸い込む度毎に、本体の先端で発光体が点灯し、あたかもタバコの火が赤く燃えたような視覚的变化が生じるから、使用者が、実際のタバコを吸っているのに極めて近い気分を味わうことができ、これによって、抵抗感なく長期にわたって使用し、禁煙の状態を継続することができる。

#### 4、図面の簡単な説明

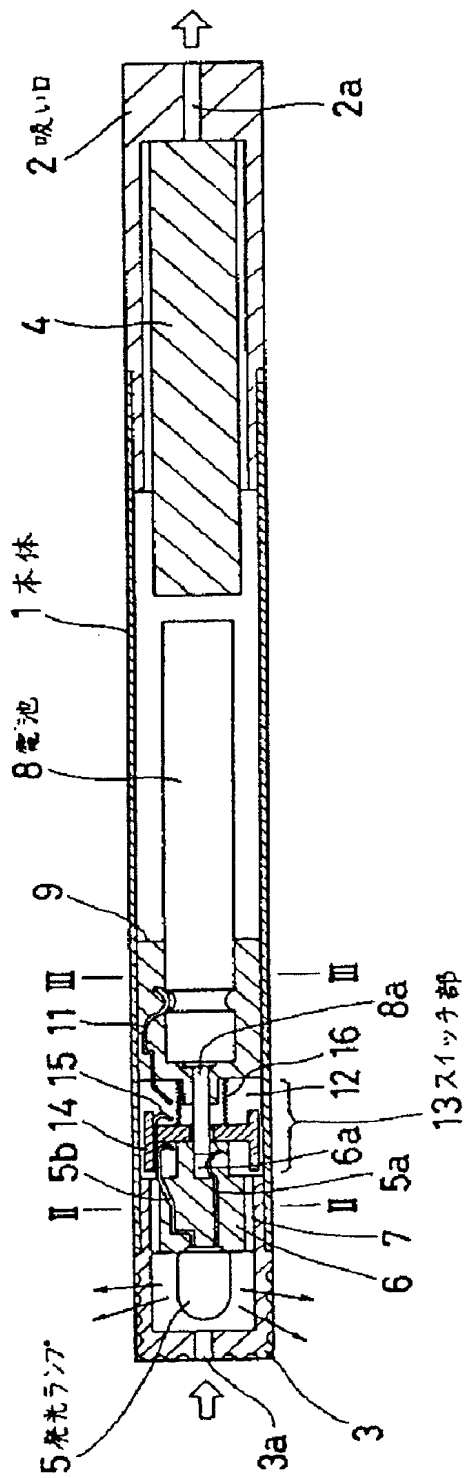
第1図は、本考案の一実施例の断面図、第2図および第3図は、それぞれ第1図のⅡ－Ⅱ線およびⅢ－Ⅲ線に沿った断面図、第4図はスイッチ部の動作状態を示す拡大断面図である。

1…本体、2…吸い口、5…発光ランプ(発光体)、8…電池、13…スイッチ部、14…スライダ、15…可動接点、16…ばね。

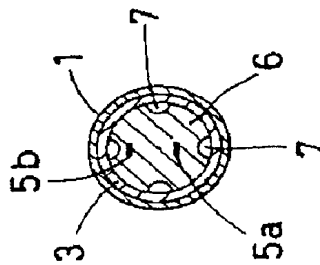
出願人 中 井 義 博

代理人 弁理士 岡田 和秀

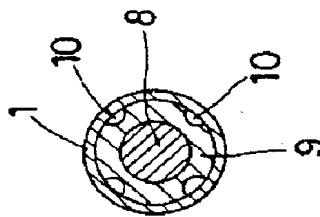
第 1 図



第 2 図



第 3 図



1409

実開 64-498

代理人

和 山 岡 上 作

第 4 図

